

## 水の事故に注意しましょう！！

水辺のレジャーは楽しいですが、一方で毎年多くの「水の事故」が起きています。

「水の事故」について、安全対策や緊急時の対応を知り、安全に楽しい時間を過ごしましょう。

### 河川、海での水の事故について

#### ポイント

水に接する場合は、大人が子どもから目を離さず、手の届く範囲で見守りましょう。



#### 注意点

川の流

・川の流



### プールでの事故について

#### ポイント

子どもから目を離さないようにしましょう。

#### 注意点

飛び込みやプールサイドからのジャンプは、重大な事故に繋がります。安全な入り方を知っておきましょう。

排水口は、吸い込まれる危険がありますので、近づかないようにしましょう。

# みず はい さい ぽいんと 水に入る際のポイント

- 十分睡眠や食事をとり、体調を整えましょう。
- 準備体操をして、からだをほぐしましょう。
- からだが水に慣れるように、からだの端(手足)から徐々に水をかけていきましょう。



## おぼ 溺れたときはどうする？



**こどもの溺れ方**

- 水深数cmでも溺れます。
- 静かに溺れます。
- 急に溺れます。

はんのう 反応が無いとき

はんのう 反応があるとき

すぐに救急車(119番)を呼び、救命処置を行い、AEDを持ってきて買いましょう。

症状が無い場合でも、水を飲んでいる可能性がります。医療機関を受診して、体調を確認しましょう。

きどう 気道の確保  
(異物が詰まっていないか確認しましょう)

しんぱいそせい 心肺蘇生開始

- 胸骨圧迫(心臓マッサージ)：幼児でも乳児でも、胸の厚さが3分の1くらい沈む強さで(1分間に100~120回のスピード)で圧迫します。
- 人工呼吸：あお向けにして、頭を後ろに反らし、同時に顎の先を上を持ち上げ、気道を確保します(胸骨圧迫30回に対し、人工呼吸2回行う)。

※AEDが届き次第使用しましょう



### 〇連絡手段の確保

救助機関に速やかに通報できるよう、携帯電話などの連絡手段を確保しておきましょう。水没して使えないといった事態を防ぐため、ストラップ付き防水パックなどを活用しましょう。



救助が必要なときは「110番(警察)」又は「119番(消防)」、海上事故の場合は、海上保安庁の緊急通報用電話番号「118番」に連絡してください。